

平成 30 年度 東京都内湾水生生物調査 1 月鳥類調査 速報

●実施状況

平成 31 年 1 月 21 日に鳥類調査を実施した。天候は晴れで、気温 8.1～10.9℃、無風または南～北の風、風速 0～4.2m/sec であった。調査当日は大潮で、干潮が 11 時 10 分(95cm)、満潮は 16 時 35 分(194cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
作業時刻	9:11-10:26	11:00-11:44	12:34-13:41
天候	晴	晴	晴
気温(℃)	8.1	10.3	10.9
風向	南	北	-
風速(m/sec)	3.0	4.2	0
備考	海浜公園の岸部近くで海苔の養殖が行われていた。	最大干潮時であったが、干潟はあまり干出していなかった。	干潟は広く干出。時間の経過に伴い、潮が満ち始め、干潟部分は減少した。

●主な出現種等

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
数が多かった 鳥類上位 2 種	スズガモ カワウ	ユリカモメ コガモ	スズガモ カンムリカイツブリ
その他の 鳥類	カモ類(ヒドリガモ等)、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、アオサギ、オオバン、イソシギ、カモメ類(ユリカモメ等)、ハクセキレイ	カモ類(ホシハジロ等)、カワウ、アオサギ、オオバン、イソシギ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、トビ、ハクセキレイ、タヒバリ	ヒドリガモ、ハジロカイツブリ、カワウ、アオサギ、コサギ、クロツラヘラサギ、シロチドリ、シギ類(ハマシギ等)、ユリカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、ノスリ、ハクセキレイ、タヒバリ
備考	・重要種として 5 種を確認(スズガモ、ウミアイサ、カンムリカイツブリ、オオバン、イソシギ)。 ・第六台場ではカワウ、アオサギが繁殖活動のため集まる。 ・鳥の島護岸付近の海上でカモ類が休息。 ・海浜公園砂浜でユリカモメが休息。 ・護岸でイソシギ、オオバン、ハクセキレイが採餌。	・重要種として 3 種を確認(オオバン、イソシギ、トビ)。 ・カモ類が護岸で休息、海上で採餌。 ・カワウ、アオサギが護岸で休息。 ・オオバンが海上で採餌。 ・ユリカモメが干潟で休息。 ・トビが干潟に降りて魚の死体をついばむ。 ・護岸でイソシギ、ハクセキレイ、タヒバリが採餌。	・重要種として 13 種を確認(スズガモ、カンムリカイツブリ、コサギ、クロツラヘラサギ、クイナ、シロチドリ、タシギ、ダイシャクシギ、イソシギ、ミユビシギ、ハマシギ、ミサゴ、ノスリ)。 ・干潟でコサギ、シギ・チドリ類(ハマシギやシロチドリ等)が採餌。 ・ミサゴが干潟に降りて休息。 ・沖の海上でスズガモ・カンムリカイツブリが採餌・休息。 ・ヨシ原からクイナとタヒバリの鳴き声。

●出現種と個体数

[illegible]

A:大型カモメに分類されるセグロカモメが確認されているので「大型カモメ」は確認種数には数えない。

*1文化財保護法：
*2種の保存法： 国保：国際希少野生動植物

*3薬理情報データベース：VOC:細胞/組織II類、N1:肝細胞/胆管
参照：http://www.biologic.go.jp/rdb/rdb_f.html

環境省自然環境局野生生物課, 2018年, 環境

*4東京都レッドリスト2010: CR:絶滅危惧ⅠA類、EN:絶滅危惧ⅠB類、VU:絶滅危惧Ⅱ類

東京都環境局自然環境部，2010年，東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～2010年版，

東京都環境局自然環境部，2010年，東京都の

<お台場海浜公園>

○調査地点の状況

第六台場と鳥の島ではカワウが営巣を始めていた。



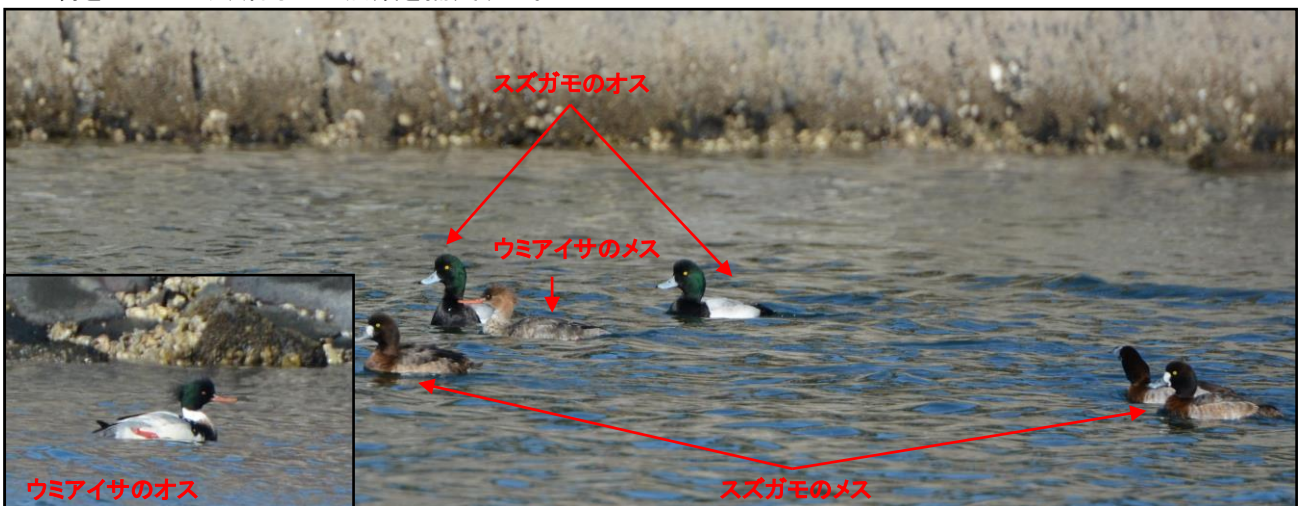
○出現種(カワウ・アオサギ)

カワウは第六台場では 329 巣、鳥の島では 35 巣を確認した。すでにヒナの鳴き声がよく聞こえており、5 羽のヒナが確認出来た。婚姻色の個体は頭部と脚の付け根が白い。第六台場では繁殖のため、アオサギも集まっていた。婚姻色になると、くちばしと足の赤味が強くなる。



○出現種(スズガモ・ウミアイサ)

鳥の島東側の護岸付近の海上を遊泳。スズガモは冬鳥として全国の河口や内湾に多数渡来し、数万羽の大群になることもある。潜水して主にアサリなどの貝類や甲殻類を捕食する。ウミアイサも冬鳥として、海岸近くの海上や港などに渡来する。大群にはならず、数羽～数十羽程度の群れで行動する。ウのように細長い嘴をもっており、潜水して魚類を捕食する。



＜森ヶ崎の鼻＞

○調査地点の状況

最干潮時刻だが、干潟の干出は少なかった。



○出現種(オナガガモ)

名前通り、長い尾羽が特徴だが、メスはオスほどの長さはない。冬鳥として全国の湖沼・池・河川・沿岸などに多数渡来する。逆立ちをして、水底の水草や植物の種子などを食べる。ハクチョウの渡来地において、ハクチョウ類が餌付けされているところでは、一緒になって群がっていることも多い。



○出現種(ホシハジロ)

北海道では少数の繁殖記録があるが、主に冬鳥として、湖沼・池・河川・河口などに渡来。オスは頭が赤茶色、胸が黒、体が灰色をしており、鮮やかな色彩。メスは頭部から首にかけて褐色、体は灰褐色である。潜水して水草や植物の種子、甲殻類などを食べる。

○干潟の利用状況

カワウ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメが休息。



＜葛西人工渚＞

○調査地点の状況

干潟は広く干出していた。



○出現種(ミサゴ)

「魚鷹」の異名をもつ魚食性のタカ。英名 Osprey(オスプレイ)。留鳥。翼開長(両翼を広げた大きさ)はメスでは 170 cm 以上になる。(タカ類は一般的にメスが大きい)。環境省レッドリスト(2018)で準絶滅危惧種(NT)、東京都レッドリスト(2010)で絶滅危惧種 I B 類(EN)に指定されている。



○出現種(シロチドリ)

砂浜や埋立地などの窪みに貝殻や小石などを敷き詰めて簡素な巣を作る。全国的に繁殖するが、北方の個体は冬季に南方へ移動する。ゴカイや甲殻類などを捕食する。環境省レッドリスト(2018)及び東京都レッドリスト(2010)で絶滅危惧種 II 類(VU)に指定されている。



○出現種(ハマシギ)

干潟で採餌。冬鳥もしくは旅鳥として干潟や海岸などに多数渡来する。通常は群れで行動し、ゴカイや貝類などを捕食する。夏と冬とで羽色が異なり、夏羽では腹が黒くなり目立つ。環境省レッドリスト(2018)及び東京都レッドリスト(2010)で準絶滅危惧種(NT)に指定されている。



○沖合の状況

スズガモとカンムリカイツブリが混在して遊泳・休息。



＜その他＞

○ウミネコの繁殖

平成 30 年 5 月 16 日、6 月 13 日の調査で繁殖を確認した構造物上では、今回ウミネコは確認されなかった。



平成 30 年 5、6 月にウミネコの繁殖を確認した構造物

＜トピックス＞

○クロツラヘラサギ

【環境省レッドリスト(2018)絶滅危惧ⅠB類(EN)】

【東京都レッドリスト(2010)絶滅危惧ⅠA類(CR)】

葛西人工渚にて、クロツラヘラサギ 1 羽が確認された。体が白く、名前にも「サギ」とつくので、一見シラサギ類のようだが、実はトキの仲間である。サギ類は首を S 字に曲げて飛ぶが、トキ科の本種は首を曲げずに伸ばした状態で飛ぶ。



日本においては冬鳥もしくは旅鳥。近年は毎年記録されており、九州以南に多い。干潟・河口・水田などで、へら状のくちばしを入れ、左右に振りながら歩き回って魚類や甲殻類などを捕食する。世界的な希少種であり、全世界の個体数はおおよそ 3200 羽程度とされている。